

§ 2 縄文時代の文化

1 縄文時代と縄文文化

- (1) 縄文時代...約1万2000年前～紀元前3～2世紀。土器を使用。
地質学 = 完新世, 考古学 = 新石器時代
- (2) 約1万年前...氷河時代が終わり, 海面が上昇する。
 - ・日本列島は, 気候温暖で海面が上昇したため, 大陸から離れ, ブナ, ドングリ, クルミなどの落葉広葉樹林が広がる。
 - ・氷河時代の大型動物は姿を消し, いのしし, しか, うさぎなどの中小動物が増加。
 - ・砂浜が発達し, 魚介類が増加。
- (3) 狩猟・採集生活...一部には植物の栽培も見られた。
- (4) 道具...弓矢の使用が始まる。すばやく動くシカやイノシシを射止めた。
 - ・鋭利な磨製石器(新石器)が使われ始めた(打製石器も併用)。石鏃, 石匙, 石槍, 石棒, 石錘, すり石, 石皿など。
 - ・骨角器の使用 鹿などの角や骨で釣針をつくり, 漁をする。
 - ・縄文土器...食料を煮たり, 保存したりした。草創, 早, 前, 中, 後, 晩期に分類。
特色 厚くてもろい。黒褐色。豆粒文, 隆起線文, 爪形文の模様。
土器の形は尖底。 平底
 - ・土偶...縄文時代の後・晩期。東日本に多く分布する。
- (5) 貝塚...貝がら, 獣や魚の骨を捨てたところ。
発見者はモース(アメリカ人)。
 - ・新石器時代に世界では農耕・牧畜生活が始まったが, 日本ではまだ一部をのぞいて狩猟・採集生活が続いていた。

2 縄文人の集落と生活

- (1) 集落...わき水があり, 日あたりのよい土地や河岸・浜辺を選んで定住し, 集団生活をする。
- (2) 住居...中央の広場を取り巻くような形で, 竪穴住居(1戸に4～5人が住める)が数戸あり, そこで共同生活をする。
- (3) 生活...四季の変化に応じて木の実を採り, 魚や鳥・獣を捕らえて食料を獲得する。(縄文カレンダー参照)
 - ・クジラやイルカは共同作業で捕獲。
 - ・黒曜石...一部の地域でしか産出しないが全国に分布。 広く交易が行われていた証拠。
サヌカイト, 硬玉も交易。
黒曜石の産地 = 和田峠(長野), 阿蘇山(熊本), 十勝岳(北海道), 姫島(大分)
サヌカイトの産地 = 二上山(奈良)
硬玉の産地 = 新潟
 - ・食料の獲得方法や保存方法が進歩 生活は比較的安定。
 - ・貧富の差・身分の上下がなかった。 住居の規模に差がないことから明らか。
 - ・共同墓地に埋葬。 人々は短命で, 15歳になるまでに半数くらいが死亡。平均寿命 30歳くらい。

- ・自然現象や自然物に精霊を認め崇拝する信仰(アニミズム)がさかん。 呪術によって災いをさけ、豊かな収穫を祈願。
- ・風習 抜歯(成人の儀式), 屈葬(埋葬の仕方), 土偶(多産, 繁栄, 豊作を祈る)

【代表的な遺跡】

夏島貝塚(神奈川県), 加曾利貝塚(千葉), 姥山貝塚(千葉)

三内丸山遺跡(青森県)...約 5500 年前～約 4000 年前。日本最大級の縄文時代のむら。

東京ドームの 7.5 倍の広さ。500 人ぐらいが定住。 中期

棚畑遺跡(長野県)...「縄文のビーナス」と呼ばれる土偶が出土。

大森貝塚(東京都)...初めて縄文土器が出土。

【縄文カレンダー】

季節	狩猟	採集(山野)	漁労	採集(海浜)
春		木の芽, 若草, 山菜 (ワラビ, ノビルなど)	トド	コンブ, アサリ, ハマグリ, カワニナ, シジミ
春～夏			アザラシ	サザエ
夏			イワシ, フグ, カツオ, タイ	ハマグリ, カキ, アワビ, アカニシ, 巻貝, ハイガイ
夏～秋		カヤ	マグロ	
秋		クルミ, クリ, ノブドウ, トチ	サケ, マス	ヒシ
秋～冬	ウサギ, ムササビ	シイ, ドングリ		
冬	クマ, イノシシ, タヌキ, サル, シカ		クジラ	
冬～春	カモ	山菜(ゼンマイ)	イルカ	

狩猟・採集の獲物は地域で異なる。